

はじめに

この度、以前より設立準備が進められていた「欧州日本庭園協会 (European Association of Japanese Gardens)」の設立総会が、フランス・モレヴリエにて2022 (令和4) 年6月1日 (水) 9時~12時に開催されました。日本においては、サテライト会場としての日本会場が同日同時時間帯 (日本時間16時~19時30分) に設営され、日本側関係者が一堂に会して設立を支援しました。日本会場は、東京農業大学グリーンアカデミーに設けられ、オンライン配信され、日本からも多くの参加がありました。

日本庭園協会としても、「欧州日本庭園協会」の設立は大いに歓迎すべきことで、今後も何らかの関係をもち、協力関係を築いていきたいと考えています。

ちょうど、フランス会場での設立総会参加とヨーロッパの日本庭園事情の視察及び管理技術者との交流を含む内容で、全国一級造園施工管理技士の会 (以降、一造会) が企画したツアーがあったので参加を決めました。

した。

ここでは、総会の様子とその前後で参加した視察や交流の様子を報告します。

設立総会の概要

フランス会場で行われた設立総会では、定款、役員、理事会の設定等が付議されました。会長には Jean-Pierre Chavassieux 氏 (元モレヴリエ議長、元モレヴリエ東洋庭園運営責任者) が、副会長には Diane Crawford 氏 (Japanese Garden Society) / Per Hundevad Andersen 氏 (Denmark Association) Joseph Grimaldi 氏 (AFJJ) が、それぞれ



図1 設立総会・フランス会場の様子

れ選任されました。その間、日本会場では、東京農業大学国際日本庭園研修センター長の鈴木誠、東京農業大学名誉教授による講演が行われました。

来賓として、フランス会場 (図1) からは、伊原純一氏 (駐フランス日本国大使)、ジャン・マルク・エロー氏 (元首相、元外務大臣) が、日本会場 (図2) からは湯澤将憲氏 (国土交通省都市公園緑地・景観課緑地環境室長) が祝辞を述べられました。関係団体として、当協会から高橋康夫会長が祝辞を述べ、国際活動委員として山田拓広、星宏海、細野達哉らがそれぞれ挨拶をいたしました。



図2 日本会場の様子

ました。引き続き、フランス会場においては会食を含めた情報交換会が行われ、ヨーロッパ各地から集まった各国の日本庭園協会の方々と交流を深めることができました。まだヨーロッパにおいては言語の壁もあり、すべての国々においては参加が実現されていない状態ではありましたが、これからヨーロッパ全体と情報共有をできる場として発展して行けると感じました。昼食後は駐フランス日本国大使の伊原純一氏を今回の旅行の団長である藤井英二郎千葉大学名誉教授が案内 (図3)、庭園の歴史や前日に行ったワークショップの内容等を解説されました。

日本会場では参加者によって情報



図3 モレヴリエ東洋庭園 伊原純一大使を案内する藤井英二郎千葉大学名誉教授 (中央)

交換会が行われました。

この欧州日本庭園協会設立総会に参加したことは、当協会が国際交流を進めるための第一歩に、また今後の欧州における日本庭園のさらなる発展のきっかけになったと確信しました。

モレヴリエ東洋庭園

設立総会の会場となったモレヴリエは、メーン・エ・ロワール県シヨレ市の近郊に位置する小さな町です。ここにはヨーロッパでも最大規模の古い日本庭園「モレヴリエ東洋庭園 (図4)」があります。

1900年のパリ万博にて日本式五重塔 (ベルギー国王のラーケン宮苑に現存) を設計したフランス人建築家アレキサンドル・マルセルの設計で1899年から1913年にかけて整備が行われました。面積約28ヘクタールの庭園で、敷地内に流れるモワンヌ川を人工的に堰き止めて作った池を中心とした回遊式庭園



図4 モレヴリエ東洋庭園

です。1981年からは国の援助も受け、園地の修復作業も行われ、1985年より市営の有料公園として一般公開に至っています。現在は園内にカフェや盆栽展示販売所等も設置され多くの観光客でにぎわっています。

日仏技術者交流

一造会が企画した今回のツアーは、欧州日本庭園協会設立総会への参加のみならず、日仏技術者交流も大きな目的の一つでもありました。ツアーは、5月28日 (土) から6月5日 (日) までの8泊9日の日程で「知られざるフランスの造園・ラ



図5 ヴェルサイユ宮殿の整形形式庭園

ンドスケープを学び現地の技術者と交流。歴史・人・文化の深淵に迫る」というコンセプトのもと、現地フランスで庭園管理をされている方々と一造会のメンバーとが交流を行うことを目的とし行ったものです。次に視察・交流の概要を報告します。

○5月29日 (日)・ヴェルサイユ宮殿

フランスを代表する整形形式庭園 (図5) 部分の大庭園直営庭師やトリアン園庭園直営庭師の方々の案内で園内を巡り、今後の庭園の展望や実際の樹木の管理方法を伺うことができました (図6、7、8)。

○5月30日 (月)・モレヴリエへ移動



図6 ヴェルサイユ宮殿 直営庭師の方々の案内で園内を巡る

○5月31日 (火)・欧州日本庭園協会設立に伴う国際ワークショップに参加

午前中に「庭園空間構成の理解と庭木の剪定」をテーマに、総会参加者らが質問を投げかける中、現地の庭師と庭園空間構成についての意見交換及び共同での剪定作業を行い、互いの技術交流を図りました (図9)。



図7 ヴェルサイユ宮殿 庭園の展望など説明をうける



図8 樹木の管理方法を聞く



図9 モレヴリエ東洋庭園 日本の技術について説明する筆者

続いて午後は「景石の扱い方、据え方」といったテーマを設定し、前日の下見を経た現地の石材を用いて、園内の一部で講習を行いました(図10)。

こちらもモレヴリエのガーデナーと共に目的、選び方、据え方について一石ずつ検討を行い、より深い理解醸成を図りました。

○6月1日(水)・設立総会参加

○6月2日(木)・ナント市

ナント市職員のアーボリストと呼ばれる高い木の剪定やメンテナンスを専門とする特殊作業員を対象とした街路樹(マツ)の半日剪定講習を行いました(図11)。続く午後にも同市ヴェルサイユ島の日本庭園内に



図10 モレヴリエ東洋庭園 現地の石材を用いた石組講習

て庭園視察後、意見交換及び剪定講習を行いました。

○6月3日(金)・パリ市

アルペール・カーン庭園(図12)において剪定講習を実施しました(図13)。午後からはパリ郊外にある緑の里と呼ばれる庭園を視察しました。園内の日本庭園は、1889年のパリ万博における日本庭園の作者畑和助の作庭によるものです。庭園は荒廃した部分がありました。古写真と比較しながら作庭時の様子について意見交換しました。

おわりに

今回の視察・講習を行った庭園は、自治体主体で管理する公共庭園であったということ considering すると、



図11 ナント市にて マツの剪定講習 説明は筆者

日常管理においてガーデナーは樹高2m程の範囲での作業に限られ、それ以上の大物は外注して管理を行っていることは日本同様でした。一方で、パリのプラタナスやヴェルサイユ宮殿の整形式庭園等に見られる整然とした刈り込みは毎年管理が行われるものの、自然樹形の樹木に対しては特別管理を施す認識がないことに日本との違いを感じました。

また15mを超える街路樹等に対しては、アーボリストが枯れ木の除去や樹木の健康診断等の管理を行い、安全を担保する仕組みが構築されていることで、日本にはない樹高の高い並木がヨーロッパで多く用いられる要因である、とも感じました。今後ヨーロッパにて日本庭園の管理を手掛けるためには、日本で中木



図12 アルペール・カーン庭園



図13 アルペール・カーン日本庭園 剪定講習

域にあたる2mから15mの樹木を用いた庭園の管理作業が大きな課題であり、さらなる意見交換の必要性を強く感じる研修旅行となりました。(理事 国際活動委員長)